

# 東アジア農業遺産の保全・活用活動 のモニタリングと評価の手法

— 農村地域内外の多様な主体の連携による生物多様性の保全・活用活動  
のモニタリング・評価手法の開発に関する研究成果 —

**日時：2018年1月23日(火) 13:30～17:00**

**会場：紀州南部ロイヤルホテル 2F グランドホール**

(和歌山県日高郡みなべ町山内 348)

**主催：国連大学サステイナビリティ高等研究所 (UNU-IAS)**

**後援：みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会**

**言語：日本語、英語 (同時通訳あり)**

**参加対象：大学・研究機関、国内認定地域の関係者、行政等**

**お問い合わせ：**

メールにて国連大学 ([yu@unu.edu](mailto:yu@unu.edu)) 又はみなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議  
会事務局 ([wakayama@giahs-minabetanabe.jp](mailto:wakayama@giahs-minabetanabe.jp)) までご連絡ください。



## 開催趣旨

2002年から国連食糧農業機関（FAO）が実施している「世界農業遺産（GIAHS）」は、現在19か国の45地域が認定を受けており、国内外の関心が高まっている。しかし、世界農業遺産の保全・活用活動に関して行動計画（アクションプラン）がどのように実施され、どのような効果を生んでいるのかなど、活動のモニタリングと評価については十分とはいえない。これに対して近年、日本、中国、韓国が研究機関の協力の下、それぞれ自国のGIAHSのアクションプランの実施に関するモニタリングと評価の手法を開発し、実施し始めている。

一方、国連大学では、「農村地域内外の多様な主体の連携による生物多様性の保全・活用活動のモニタリング・評価手法の開発」（農林水産政策科学研究委託事業）を実施しており、その一環の「地域によるモニタリング」として、昨年度和歌山県みなべ・田辺世界農業遺産協議会の協力の下、SATOYAMAレジリエンス指標実証現地検討会を開催した。

本ワークショップでは、その現地検討会を含む研究成果を地域の関係者に報告・フィードバックするとともに、生物多様性をはじめとした世界農業遺産の保全と研究活動をリードしている「東アジア農業遺産学会」の日本、中国、韓国の専門家を迎え、各国のGIAHSのアクションプランの実施状況を検証し、モニタリングと評価の手法の開発について議論するとともに、「第三者による評価」として、モニタリング・評価手法のプロセスを検証する。

## プログラム

- 13:00～ 受付
- 13:30～ 開会挨拶 国連大学（UNU-IAS）シニアプログラムアドバイザー、  
東アジア農業遺産学会（ERAHS）日本事務局長 永田明
- 13:40～ **第一部：世界農業遺産のアクションプランの実施**
- 13:40～ 講演① 世界農業遺産におけるモニタリングと評価の重要性  
国連大学（UNU-IAS）上級客員教授、FAO GIAHS SAG 委員 武内和彦
- 14:00～ 講演② 中国における農業遺産の保全と活用  
中国科学院地理科学・資源研究所教授、FAO GIAHS SAG 副議長  
ミン・チンウェン
- 14:20～ 講演③ 韓国における農業・漁業遺産の保全と活用  
韓国協成大学校教授 ユン・ウォングン
- 14:40～15:00 休憩
- 15:00～ **第二部：生物多様性の保全を中心とした農業遺産のモニタリングと評価の実施**
- 【モデレーター】 国連大学（UNU-IAS） 永田明
- 【パネリスト】
- 「中国の農業遺産のモニタリングと評価の手法」 中国科学院地理科学・資源研究所助教 ジャオ・ウェンジュン
  - 「韓国の農業遺産のモニタリングと評価の手法」 韓国農業村公社部長 パク・ユンホ
  - 「農村地域内外の多様な主体の連携による生物多様性の保全・活用活動のモニタリングと評価手法の開発に関する研究」 国連大学（UNU-IAS）研究員 イヴォーン・ユー
  - 「世界農業遺産「みなべ・田辺の梅システム」とアクションプラン達成に向けた取組」  
和歌山大学教授 養父志乃夫
- 【コメンテーター】 金沢大学客員教授、東アジア農業遺産学会（ERAHS）日本議長 中村浩二
- 16:00～ Q&A
- 16:55～ 閉会挨拶 みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会会長 みなべ町長 小谷芳正